

# おおもり やよいじだい しゅうらく 大森町周辺に広がる弥生時代の集落

(仮称) 大森遺跡・平城京跡 (左京五条五坊二坪・東四坊大路) 奈良市大森町

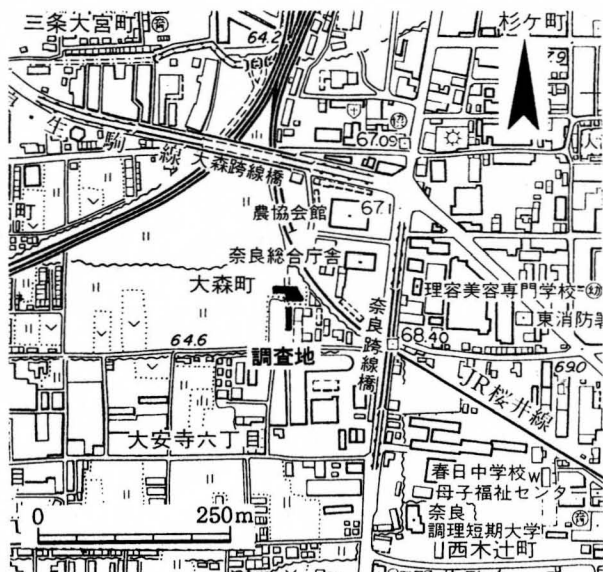
奈良市では、平成13年度以降、JR奈良駅から南へ500mほどの場所に広がる水田地帯で進めているJR奈良駅南特定土地地区画整理事業に伴い、発掘調査を実施しています。事業地内は、平城京の条坊復原では、左京五条四坊の北半と五条五坊の一部にあたります。これまでの調査では、奈良時代の道路や橋、宅地内の建物、塀、井戸、溝、土坑等が見つかっています。また、弥生～古墳時代の遺物包含層や、その下層面で弥生時代の土坑、溝が見つかっていることから、一帯には弥生時代の遺跡が広がることがわかってきました。

**調査の概要** 平成18年度は、左京五条五坊二坪の西端及び東四坊大路が想定される地点で調査を行い、弥生時代の井戸、土坑、溝、流路と奈良時代の道路(東四坊大路)とその東側溝、宅地内の掘立柱建物・塀、溝、土坑、中世以降の耕作に伴う土坑や素掘りの溝を検出しました。

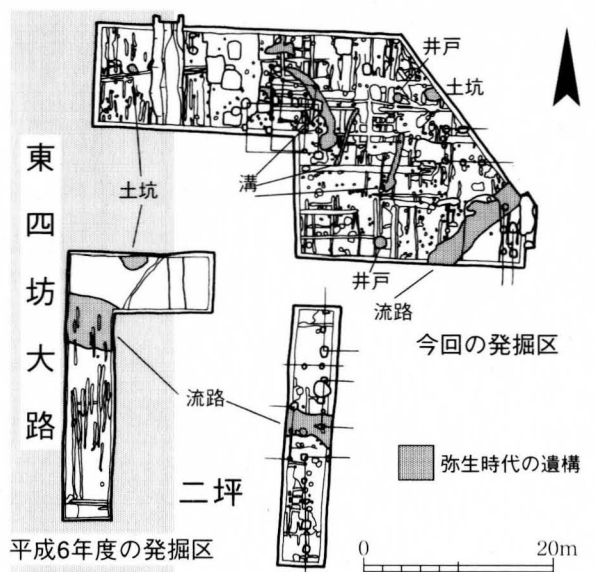
今回の調査地では縄文～古墳時代の遺物包含層はなく、弥生時代と奈良時代以降の遺構は同じ面で見つかりました。さらにその下層面に遺構があるかどうかを確かめるため、発掘区の一部を深く掘り下げて、堆積している土層を観察したところ、

東西方向に河川が存在した時期があることがわかりました。この河川の埋土に含まれていた流木の放射性炭素年代測定を行った結果、補正<sup>14</sup>C年代5,160±40(年B.P.)、暦年代(cal B.C.) 3,970年、つまり縄文時代中期であることが判明しました。

今回の調査成果としては、これまでの事業地内での調査の中では、弥生時代の遺構の密度が高いことがあげられます。今回確認した溝については、その大半は上半部分が後の時代に削られており、本来の規模や性格については明らかではありませんが、竪穴建物に伴う周溝もしくは方形周溝墓の一部であったことが考えられます。また、流路は平成6年度の調査成果を考慮すると、集落内の区画溝であった可能性があります。流路から弥生時代後期末頃～古墳時代初頭の壺、甕、高杯といった土器と、サヌカイト製石器が出土しました。また、当時の植生を明らかにするため、井戸の埋土に含まれる花粉の分析を行った結果、近隣にはコナラ属アカガシ亜属を中心に構成された森林が分布しており、イネ科、アカザ科・ヒユ科、セリ亜科、ヨモギ属、オオバコ属等といった、人里周辺で見かけられる雑草が生えていたことがわかりました。



調査位置図 (1/10,000)



発掘区遺構平面図 (1/800)

### 大森町周辺の弥生時代の遺跡について

能登川扇状地の扇端部にあたる大森町・大森西町や三条本町及び杉ヶ町では、発掘調査で弥生時代の遺構を確認しています。大半が後期末頃の遺構で、集落に関するものが多いことから、当時の集落遺跡が広く分布すると考えます。

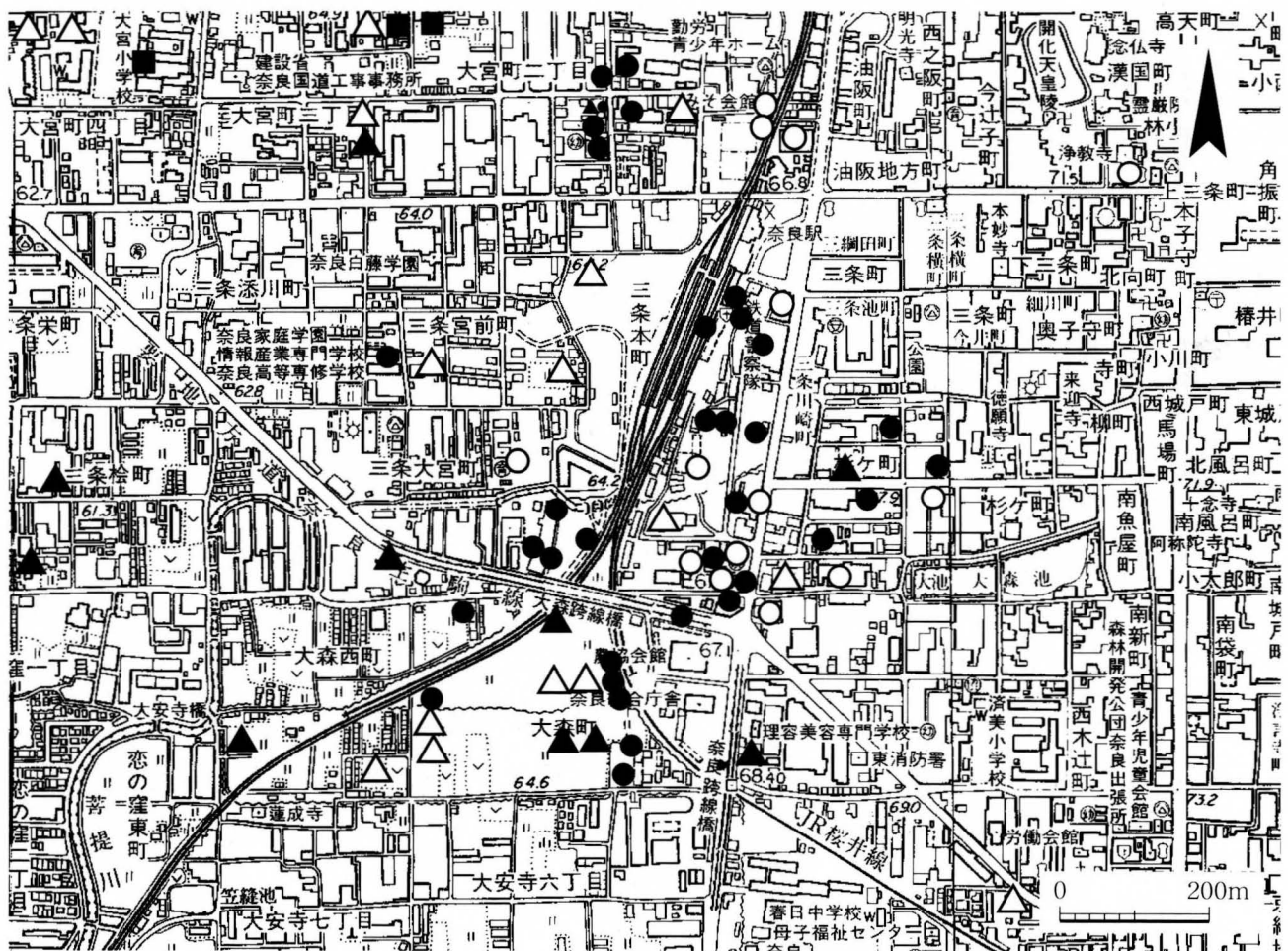
大森町及び大森西町で実施した発掘調査では、弥生時代後期末頃の堅穴建物、井戸・土坑・溝や遺物包含層を確認しました。これらの遺構や遺物包含層からは、土器や木製品、石器など日常生活に関連する遺物が出土しました。

すぐ北の三条本町で実施した発掘調査では、弥生時代後期末頃の区画遺構・土坑と、同時期に埋没する、東から西へ流れる複数の川を確認しました。遺構や川から出土した遺物に、底部に靨の圧痕が残る土器があり、木製品に鋤・杵といった農具を含むことから、水田耕作を営んだことがわか

ります。また、東隣の杉ヶ町では弥生時代後期末頃の堅穴建物・井戸・土坑・溝を確認しました。

以上のことから、三条本町と杉ヶ町の集落遺跡は、同じ川筋で水田耕作を営む農村であった可能性があります。また、立地的にみて大森町や大森西町の集落遺跡も農村の可能性がありま

す。弥生時代後期末頃にこの地域で農村とみられる集落が広く開発できた理由には、複数の川が埋没することで水田に適した低地が各所で成立したことと、開発に対応できる労働力と技術を持つ共同体が成立していたことが考えられます。なお、三条本町や杉ヶ町では古墳時代初頭の遺構や遺物もみられ、集落は古墳時代初頭まで規模を縮小しながら継続するようです。こうした集落遺跡は、古墳時代の地域社会の成立を理解するための重要な手がかりにもなると考えられ、その詳細は今後の発掘調査で明らかにしていく必要があります。



大森町周辺の弥生時代の遺構・遺物分布図 (1/10,000)

弥生時代後期…●遺構検出・遺物出土 ○遺物出土  
 中期…■遺構検出・遺物出土 □遺物出土  
 時期不明…▲遺構検出・遺物出土 △遺物出土